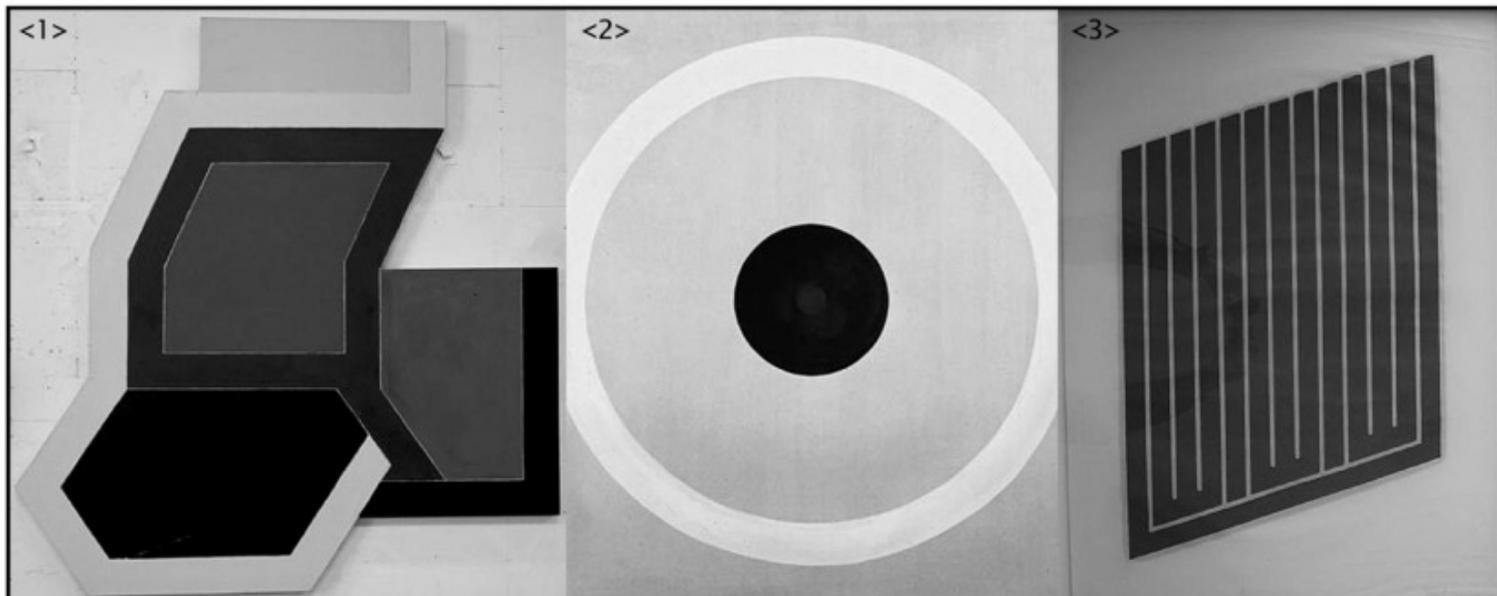


# PLAYBILL<sup>®</sup>

MORIMURA SEMINAR



# ART AND OBJECTHOOD

IKEDO BAKU / OGAWA KEITA / KOBAYASHI YOSHIHIRO PRESENTATION



**芸術と客体制性 Art and Objecthood**  
**マイケルフリード Michael FRIED**

1. はじめに

今回の「芸術と客体制性」という文章は、タイトルだけをみるとそう難しくはないようにも思える。しかし、実際読み込みをはじめていくと、何度足を止め、立ちつくしたことだろうか。「客体制性」とは何か、「演劇性」とは何か、この両者はどのように関係しているのか、なぜリテラリズムは芸術に含まれないのか、フリードがなぜモダニズム芸術を擁護し、リテラリズムを批判するのか、同じ作家の作品でも「演劇性」を持つものと持たないものとの間にはどんな違いがあるのか、そしてそれは私たち一般の人間にも知覚できるのだろうか、等々様々な問いを投げかけてみた。しかしながら、それら全てに解答を与えられた訳では到底ないし、理解の浅いところもあるだろうが、できるだけテキストに沿って理解に努めた。

2. フリードにおける客体制性

○リテラリズム(別名：ミニマルアート、ABCアートなど)

モダニズム絵画・彫刻関係において定義される。モダニズムへの反抗。

絵画への反抗：一枚の絵画は諸部分の集合ではなく、一個の实在物

モダニズム絵画が強調する矩形の単調さゆえにアレンジの可能性を制限

→三次元こそ制作の可能性を広げる

彫刻への反抗：「部分部分」の「关系的」な擬人観ではなく、「特殊な客体」としての不可分な形体としての価値

○客体

モダニズム絵画とリテラリズムの芸術との違い

→絵画もしくは客体(object)が、絵画として経験されるのか、物体(object)として経験されるのか

作品の形態が客体制性を持つことの拒否 →モダニズム

作品の形態が客体制性を熱望 →リテラリズム

客体：主体に対応する存在。また、主体の作用の及ぶ存在 (広辞苑)
----------------------------------

客体を考えるとき、主体という概念が必要であり、それがなければ十分とは言えない  
では、客体性をもたない作品とは？

観客から見られることを前提にせず成立する作品

ex) 18世紀後半のフランスの絵画

「たとえば、シャルダンの絵画の中に描かれた人物たちは、夢中になって本を読んでいた  
たり、独楽で遊んでいたたり、自分の行為に没入して、観客から見られていることをまったく  
意識していない。反対にそうした絵を見る観客にとってみると、なぜ、それを、どこか  
ら見ているのかわからない、いわばその見ている世界から、それを見ている主体自身が消  
去されてしまったような非在感（臨死体験のような）に襲われる。」（フリード）

○ 演劇性：客体性と主体性の関係が成立する性質

「演劇とは今や芸術の否定である」

ここで言う「芸術」とはモダニズム芸術であり、すなわちそれは現前が与えられない芸術

「現前はサイズによってもしくは非-芸術の外観によって与えられ得る」

非-芸術による現前 → 芸術ではないもの、つまりリテラリズムの作品による

サイズによる現前 → 客体と距離との関係

○ 観者と作品との間にできる空間的かつ精神的距離

→ 他人と対面したときにとる距離のようであり、不安をかき立てられるために生じる

3つの理由：1. 人間の大きさに近いサイズ 『賽(Die)』『黒い箱(Black box)』

2. リテラリズムの理念に近い実在としての他人や自然

3. 生命のような内側をもつ 『無題』

### 3. 演劇性

#### ■ 1. 演劇的 (Theatrical) とは

モダニズム作品は、そのあり方が作品の中で閉じており、観者は作品の成立に必要なない。  
ミニマリズム作品は、そのあり方が観者に対して開かれ委ねられており、観者と作品の主体/客体関係により、客体制を帯びる。

##### ・モダニズム作品

作品から受け取られるべきものは、厳密に作品の内にある。

↳作品はその作品のみで成立。(観者は作品の成立に必要なない)

↳意味が充満していて自律している。(どの瞬間にも全体が開示されている。)

↳置かれる状況に左右されない。

##### ・ミニマリズム (リテラリズム) 作品

芸術の経験は、ある状況における (観者を含む) 客体の経験。

↳作品は観者を含んだ環境で客体を経験することで成立。=演劇的

↳観者への効果に依存していて、自律していない。

↳置かれる状況に左右される。

↳物体 (object) であり、客体 (object) であり、意味が欠落している。

#### ■ 2. ミニマリズム (リテラリズム) 作品とモダニズム作品から受ける印象の違い

##### ・モダニズム :

ジェスチャーを模倣するのではなく、ジェスチャーの効能を模倣する。

例 : アンソニー・カロの作品

##### ・ミニマリズム :

他者と向かい合って、他者によって立ち塞がれているような圧迫感を感じる。

例 : トニー・スミスの作品《賽(Die)》

#### 4. モダニズム芸術とリテラリズムの比較

リテラリズムの芸術はモダニズムの絵画や彫刻にとってかわろうとしている、またはモダニズムの絵画や彫刻のどちらかを足がかりにして自らを独自の芸術として確立したがつている。

■リテラリズムのモダニズムの絵画に対する観点→絵画は枯渇瀬戸際にある芸術→矩形の支持体を用いずにシェイプト・キャンバス(変形キャンバス)を用いたところで、それは断末魔の苦しみを長引かせることしかできない→単一の平面性での制作を放棄して三次元へ向かうべき

■リテラリズムのモダニズムの彫刻に対する見解

リテラリズムのアーティスト(ジャッド、モリス)は彫刻に反対する  
→彫刻とは、部分部分付加することによって構成されて成り立ち、緒要素は全体から分離しており、かくして内部で諸所の関係性を引き起こす→全体性と単一性と分割不可能性という価値を主張→一つの作品ができる限り「一つの事物」単一の「特殊な客体」であることの価値を主張→彼らは「形体」を重んじる

例・モリスの「ユニタリーな形態」は単一の形体以外のものとして把握されることに反対するような多面体。彼のシステムの中で、「最も重要な彫刻的価値」は客体であり、客体の全体性を保障するものは、形式の単一性

■演劇と演劇性がモダニズムと目されるすべての芸術にとって反目しあう理由

1 諸芸術の成功または残存でさえもが、演劇性を打破するそれらの能力にますます左右されるようになってきている。

2 芸術は演劇の状態に近づくにつれて墮落する

3 モダニズム芸術にとっての「質という概念の重要性」のため

リテラリズムの作品・・・価値もしくは質はさしたる問題ではなく、その作品が「興味深いか否か」ということが重要になる。

モダニズムの作品・・・その作品がその分野の過去の作品との比較に耐えられうる質や価値を有しているか否かが問題になる。

→諸芸術の隙間に存在するのが、「演劇」である。

#### ■瞬時性と連続性

リテラリズムの目指すもの・「終わりのなさ」。それは本質的に終わりのない、もしくは不確定な持続の提示。いつまでもいつまでも続けることができるということ、いつまでもいつまでも続けなければならないことさえもが、興味深さという概念にとっても客体性という概念にとっても中心的なものであるから。

モダニズムの作品・それがどの瞬間であっても、作品自身が完全に明示的であること。言い換えれば、この人が一種の瞬時性として経験するものは、この連続的で全体的な現在性でありそれはいわば永続するそれ自体の創造。

→モダニズムの絵画と彫刻が演劇を打破するのはそれらの現在性と瞬時性の効力である

#### 5. 考察

今回私たちはマイケル・フリードの「芸術と客体性」に依拠しながら、モダニズムの諸々の発展の中で発生した、「客体性」「演劇性」という問題について学んだ。文献自体が1968年のものであることから、2006年を迎えた現在からすれば、約40年前の文献ということになる。私たちが文献を読み進める中で困難を感じたのは、なぜこんなにも回りくどい言い回しをするのか、リテラリズムを批判することでモダニズムを持ち上げようとするような婉曲な方法をとるのか、ということだった。現代に生きる私たちが、40年前の時代背景や状況をそのまま理解することは困難をきわめる。過去の文献を読むということの難しさを、今回私たちは学んだように思う。よって、多くの疑問は残った。その多くの疑問の中で、私たちにもっともひっかかったのは、フリードの最後の記述「我々は皆、リテラリストである、我々の生の殆どもしくは全てが。現在性は、恩寵なのである。」であった。この記述を現代にあてはめて考えてみた。リテラリズムの特性としては、終わりが無いということ・面白ければそれでいいということである。終わりがみえていないこと、それはすなわち「死」がみえていないということそれは「瞬時性」を失っていることである。面白ければいいということつまり、歴史の積み重ねの中で生きている私たち自身が過去との比較をする視点を失ってしまっているということである。現代人にもそのような言葉を当てることは、あながちの外れではないと感じた。むしろそれは強化されているのではないか。

## 6. 参考

現代美術を知るクリティカル・ワーズ

<http://valis-declinaison.com/critic01/txt050116.html>

[http://www.kojinkaratani.com/criticalspace/old/special/okazaki/dan064\\_06.html](http://www.kojinkaratani.com/criticalspace/old/special/okazaki/dan064_06.html)

## MORIMURA SEMINAR

- <1>. Sunapee I \* shaped canvas, 1966, Frank Stella
- <2>. Brass Sound, 1962, Kenneth Noland
- <3>. Untitled \* Block 11-L (Cat.Rais.#58), 1961-1968, Donald Judd
- <4>. Untitled, 1965-1966, Donald Judd
- <5>. Generation, 1965, Tony Smith
- <6>. Die, 1962, Tony Smith